

大分高専の国際協力～足踏みミシンをフィリピンへ -自治体国際協力促進事業(モデル事業)の活用事例：大分市への助成-

経済交流課

使われなくなった足踏みミシンを修理して、貧困層を抱える東南アジア諸国へ贈る――。大分工業高等専門学校(以下、大分高専)が2003年から続けている国際協力活動です。

活動がはじまったのは2003年。当時の大分青少年団体連絡協議会からの参加依頼をきっかけに、大分高専の「足踏みミシンボランティア部」の活動はスタートしました。これまでにタイ、インドネシア、マレーシアの村や学校へ、延べ100台を超えるミシンを贈呈。2007年からは学生が教職員とともに現地へ渡航し、故障したミシンの修理と併せて修理技術の指導も行っています。



◆ 今年もフィリピンへ贈呈

今年、フィリピン共和国へ贈ることになったきっかけは、大分県フィリピン友好協会会長から、当地の格差・貧困の問題や災害孤児などの国内情勢を聞いたこと。その後、同協会の行っている地域自立支援活動と足踏みミシンへの現地ニーズがマッチしていることを確認し、実施に至りました。

貧困層の居住する地域には、社会インフラが未整備のため電気が供給されていない地域や、貧困のため電気を買えない地域があります。彼らの経済的自立を支援するため、電気を使用しない足踏みミシンを贈呈することとしました。ミシンはマニラ市内のキリスト教会に届けられ、その後地域自立支援センターへも届けられました。



フィリピンでミシンの修理方法を教える学生

◆ 学生達がフィリピンを訪問

ボランティア部の学生(部員21人)は、毎週木曜日の放課後に技術部職員の手導のもと、大分県内などから寄贈された故障した足踏みミシンの修理に取り組んでいます。

また、今年も希望学生の中から6人が現地を訪問し、故障したミシンの修理方法の伝授や文化的な交流を行い、貴重な経験を積みました。

現地渡航費用などの資金をどう確保していくかといった課題はありますが、同校では他団体との連携を図りながらこのボランティア事業を続けていきたいと語っています。

当協会では、2010年度と2011年度の2年間、自治体国際協力促進事業(モデル事業)でこの活動を支援しています。今後も、このような地域発の国際協力の取り組みを支援し、国際協力の裾野を拡大していきたいと考えています。